

デザイン工学部

I 2012 年度認証評価 努力課題課題に対する改善計画（報告）書

該当なし

II 2015 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2015 年度大学評価結果総評】

横断的な知識の融合により、多面的な観点から物事を検討し、公正な価値観を持った、創造性豊かな人材の育成を学習・教育目標とする学部理念に応じて、各専門分野を担う学科において、適切な対応が行えるように規定を設け、将来的な課題も含めて検討されている。

全体として、デザイン工学部は他の学部には見られない独創的な仕組みや取り組みが行われていることは高く評価できる。たとえば、学部としては、理工系では唯一の英語強化プログラム、達成度評価支援システムの活用、また各学科についても、建築学科では『アーキテクトマインド』の作成と配布、「国際ワークショップ」の開催、都市環境デザイン工学科では優秀授業賞、授業改善に役立てることを目的として授業のビデオ撮影による自己点検、学習保証時間の設定、システムデザイン学科では学部と大学院教育との連携、各分野横断的な実習授業等々、数々の優れた試みが展開されている。

「工学」と「美学」の融合により、時代に先駆けて、新しい文化を創造する「総合デザイン（ホリスティックデザイン）」の教育と研究を推進する理工系学部として、ますますの発展を期待したい。

【2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）

デザイン工学部では 2007 年度の学部設置から間もなく 10 年が経過し、完成年度の 2011 年には大幅なカリキュラムの見直しが行われている。この間に培われた学部の特色と、学部運営体制の確立に一定の評価が得られたと考えている。

引き続き、学部の特色である「国際的プログラムをはじめとする、クォーター制の利点を活用したカリキュラムの多様化」、「学習達成度自己評価システムによるきめ細かな履修支援」を推進課題とするとともに、従来からの懸案である「狭隘な施設における学習環境の改善努力」を継続する。

III 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教員像および教員組織の編制方針】（2011 年度自己点検・評価報告書より）

デザイン工学部の教員には、学部理念である「総合デザイン」の理解を前提に、学部や学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえ、教育目標に向けた高い相互理解力を保有していることが求められる。また横断的な知識の融合による多面的な観点から物事を検討し、理解できる学生の育成と支援が求められる。

このような学部としての教員像を踏まえ、各学科では以下のような方針の下、教員組織の編制を行なっている。

建築学科では、学習・教育目標の達成に向け、5 つの専門分野から構成される教員組織、すなわち、①建築デザイン、②建築・都市史、③建築環境、④建築構造、⑤建築構法・施工の各分野に専任教員を配置し、それぞれが先端的な研究能力を有すると同時に、相互の分野を横断的に解釈・実行できる教員を求めている。

都市環境デザイン工学科では、学習プログラムに示される目標を適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった教員と教育支援体制を求めている。教員の構成は、3 つの系と呼ぶ専門分野、すなわち、①都市プランニング系、②環境システム系、③施設デザイン系それぞれに教育目標に応じて適切に専任教員を配置するとともに、助教や経験豊かな任期付き教員などを含めて多彩な教員組織を構成していく。また、専任教員は研究とともに、教育さらには学校運営事務の能力をバランスよく備えていることを求めている。

システムデザイン学科では、教育目標の達成に向け、3 つの専門分野から構成される教員組織、すなわち、①クリエイティブ分野（インダストリアルデザイン）、②テクノロジー分野（エンジニアリング）、③マネジメント分野の専任教員を横断的に配置し、学科の教育の基盤となる文理融合型の専門三分野の横断的な系の構築の方針で教員組織を編制している。また各分野で重要となる講義には全て、専任教員を配置している。

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい  いいえ

<p><b>【根拠資料】</b> ※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「デザイン工学部教員適格審査内規 (D工規定 006号)」</li> <li>・「デザイン工学部教授・准教授および専任講師資格内規 (D工規定 008号)」</li> </ul>	
②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p><b>【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学部執行部を学部長・主任・副主任により構成。</li> <li>■ デザイン工学部「運営委員会」を執行部と各学科主任により構成し、学部内の役割分担と責任の所在を随時点検・修正しながら所掌・責任体制を明確にしている。</li> <li>■ 各学科では、学科主任が主催する「教室会議」を専任教員により構成し、授業運営・教育改善・学務・広報などに関わる役割分担や責任の所在を常に明確にした上、改善すべき点を随時議論し教育の質向上を継続的に図っている。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「法政大デザイン工学部運営委員会規程」(D工規程 002号)</li> </ul> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議ならびに拡大教室会議議事録</li> <li>・教室会議規定</li> <li>・教室会議組織申し合わせ</li> </ul> <p>&lt;SD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室会議議事録</li> </ul>	
③教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。</p> <p><b>【学部共通】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学部教育での専門区分が、大学院での専門分野に展開されており、学部担当全教員が大学院教育も担当することで、学部生への卒業研究指導を修士・博士研究の指導と一体的に進めている。</li> <li>■ 大学院進学希望の学生は大学院科目の先取り履修が可能であり、早期に大学院教育に接する機会を提供している。</li> </ul> <p><b>【建築学科】</b> 『アーキテクトマインドについて学ぶ』を学部と大学院に共通する教育理念・目的としている。</p> <p><b>【都市環境デザイン工学科】</b> 3年次のゼミナールでの、キャリア・ガイダンスに大学院への進学指導を含めている。</p> <p><b>【システムデザイン学科】</b> 3年生春学期からゼミナール1を開始し、早期に基礎的知識を深めた上で、4年次に卒業研究・卒業制作を行っている。これにより、学生は大学院における教育の方向性について早い段階から把握している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部担当表および大学院担当表</li> <li>・デザイン工学部生のための履修の手引き</li> </ul> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『アーキテクトマインドとは何か?』</li> </ul> <p>&lt;SD学科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・WebシラバスのURL</li> </ul>	
1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。	
①学部(学科)のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。</p> <p><b>【学部共通】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各学科とも、複数の専門系により教育分野全域を偏りなく網羅しており、基礎科目から卒業研究に至るまでの系統だった系別履修モデルで明示されるように、カリキュラムに対応して適材適所に教員を配備している。</li> <li>■ 学部のミッションである「総合デザイン」に基づき、専任教員は各分野において先端的研究能力を有すると同時に、分野横断的にカリキュラムを把握できる人材としている。これら専任教員を各系に原則複数配置して系相互のつなが</li> </ul>	

りを強化している。

- 専任教員は兼任講師の教育パートナーとして業務上の課題解決に対して協働するとともに、年1回以上の講師懇談会を開催するなど、教育目標の達成に向けて全専任・兼任教員が一体的に教育を進めている。また、各学科分野に精通した教育技術員を配置し、実習教育を支援する仕組みとしている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き

2015年度専任教員数一覧 (2015年5月1日現在)

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教 員数	うち教授数
建築	12	1	1	1	15	10	5
都市環境 デザイン工	8	2	0	0	10	8	4
システム デザイン	10	0	0	0	10	8	4
学部計	30	3	1	1	35	26	13

専任教員1人あたりの学生数 (2015年5月1日現在) : 33.8人

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい  いいえ

【特記事項】(～200字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。

現状では50～60歳代の教員比率が高く、教員年齢構成の適正化を教授会での合意事項として目指しており、若手教員の新規採用を鋭意進めている。

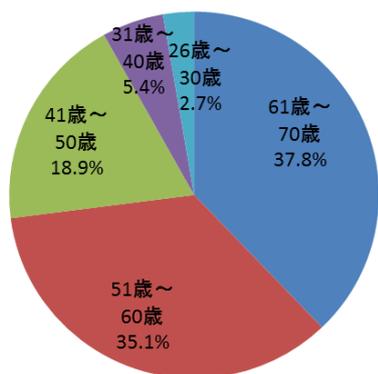
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・「デザイン工学部・若手採用人事」に関する申し合わせ (D工申し合わせ)
- ・教員年齢構成表

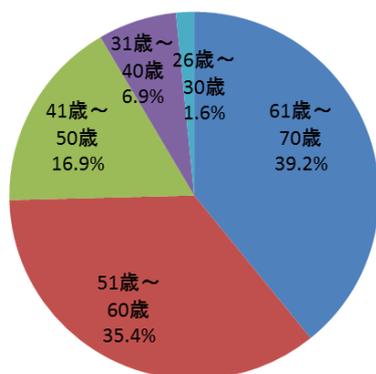
年齢構成一覧 (2015年5月1日現在)

年度\年齢	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳
2015	1人 2.7%	2人 5.4%	7人 18.9%	13人 35.1%	14人 37.8%

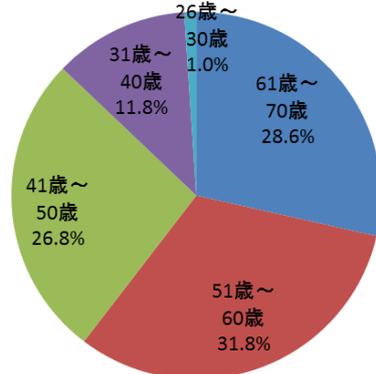
年齢構成比  
(2015年度デザイン工学部)



年齢構成比  
(デザイン工学部過去5年平均)



年齢構成比  
(過去5年全学部平均)



1.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。

①各種規程は整備されていますか。

はい  いいえ

【根拠資料】※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

- ・「デザイン工学部教員適格審査内規 (D工規定 006号)」
- ・「デザイン工学部教授・准教授および専任講師資格内規 (D工規定 008号)」
- ・「デザイン工学部人事委員会構成・運営細則 (D工規定 007号)」

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい  いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等（非公開）を添付することでも可。

- 推薦あるいは公募により各学科が教員の採用候補者あるいは昇格人事対象者を教授会に提案。
- その後、教授会において人事委員会付託の是非を決定。
- 人事委員会での審議の結果が教授会で報告され、教授会において審議されたのち、投票により採用・昇任の是非を決定。

1.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

A  B C

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

【学部共通】

- 毎年度末に講師懇談会を開催し、兼任教員と教育技術嘱託を交え教育内容・方法等の改善を検討
- 学生による授業評価アンケートの実施

【建築学科】

- JABEE（日本技術者教育認定機構）研修会への代表教員の参加と研修報告

【都市環境デザイン工学科】

- JABEE（日本技術者教育認定機構）研修会への代表教員の参加と研修報告
- 学内外で実施されるFD推進活動への参加と日常実践ならびにそれらの報告
- 授業のビデオ画像の自己点検と相互視聴、「学生による授業評価アンケート」結果および「採点評価」結果に基づく「次期授業改善計画」の策定とその実現など、授業改善を継続的に図る仕組み・制度の整備

【システムデザイン学科】

- 教室会議における、講義の実施状況や内容、スケジュール管理、課題についての議論

【2015年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

【建築学科】

- JABEE（日本技術者教育認定機構）審査講習会、2015年7月3日（金）、建築会館（東京田町）、審査の際の要点等を習得するための講習会で建築学科から2名が参加

【都市環境デザイン工学科】

- 授業のビデオ撮影（春夏・秋冬学期中の各1回、専任教員が担当する専門科目の講義・実習・演習・実験の一部）
- 次期授業改善計画の作成（毎学期・全科目）
- JABEE受審校研修会、2015年5月9日、土木学会講堂
- 学部自己点検懇談会、2015年6月4日、九段校舎第1会議室
- 法政大学第10回FDフォーラム、2015年11月14日、外濠校舎、「大人教授業での工夫」
- 第7回JABEE一日工教共催ワークショップ、2016年3月26日、芝浦工大豊洲キャンパス、交流棟5階501教室、「教育の質保証・向上のレシピとその活用」・教育改善WG：2015年4月20日、5月1日、10月12日など、市ヶ谷田町校舎内、自己点検書作成、学習達成度自己評価システムの整備・活用促進、4年生アンケートの実施・分析、優秀授業賞の授与作業、等々

【システムデザイン学科】

- 海外における教育環境の視察（2015年10月31日～11月3日、南フィリピン大学、専任教員8名）

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

<建築>

- ・ 教室会議議事録

<都市>

- ・ 教室会議、拡大教室会議の資料と議事録（FD活動報告、教育改善WG報告を収録）
- ・ 各授業担当者が作成した次期授業改善計画

<SD>

- ・ 教室会議議事録

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書き

でそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

### (3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- 教員年齢構成適正化の推進。
- デザイン工学部では、教員の多くが学術論文の他、「ものづくり」の実践により学内外から高く評価されている。こうした実績の多様性を適正に評価するために、学術論文の実績だけに偏った現行の実績評価基準を改善する必要がある。

### 【この基準の大学評価】

デザイン工学部の教員に求める能力・資質等は、教員の適格審査内規や資格内規に明示されている。また、組織的な教育を実施するために、教室会議、運営委員会、執行部による役割分担と責任が明確にされており、適切な運営体制と評価できる。

教員組織については、学部のミッションを念頭に、各学科において基礎科目から卒業研究までの系統だった系別履修モデルのカリキュラムに対応した教員が適切に配置されている。大学院教育との連携に関しては、学生に対し大学院進学を意識した指導がなされ、大学院科目の先取り履修を可能とする取り組みが行われている。

教員の年齢構成の偏りに対しては、若手教員の新規採用により改善が進められている。教員の募集・任免・昇格については内規等が整備され、適切に運用されている。

学部共通したFD活動としては、講師懇談会を開催し、兼任教員と教育技術嘱託を交えて教育内容・方法等の改善を検討したり、学生による授業改善アンケートを実施している。また、学科毎に JABEE (日本技術者教育認定機構) 研修会へ代表教員を派遣し、研修報告を行うなどFD活動の充実に努めている。

## 2 教育課程・教育内容

### 【2016年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

#### 【教育課程の編成・実施方針】

デザイン工学部では、総合的デザイン能力を身につけようとする学生を教育するにあたり、教育課程の編成・実施について以下の方針を掲げる。

1. 多様な内容、文理融合の教養教育の充実
2. 基礎的科目と専門教育の連携とその体系的な編成・配置
3. 実務と結びついた演習・実習教育、スタジオ教育の充実
4. 先端技術への対応
5. 少人数によるきめ細かな教育の充実
6. 社会貢献と社会への情報公開・説明責任の遂行

こうした学部の方針を踏まえ、各学科ではそれぞれ、以下のような具体的なカリキュラムポリシーを掲げている。

建築学科における専門科目では、高度な数学的手法や実験、シミュレーション等を行うが、その導入としての専門基礎科目(物理・数学等)は、だれもが理解しやすいよう専任教員が連携的授業を組立て、指導を行っている。専門課程では、学科を構成する「計画・歴史」、「構造・構法」、「環境・設備」の各分野が工学的な知識・理論を基盤に「芸術的な素養」を加えて重合しながら有機的に結びついている。さらに各分野を総合的に把握できる能力を獲得するために、横断的なプログラムを構成している。実際に町や村に出て調査を行う「フィールド・サーベイ」、国際的な感覚、異文化理解のために国内外の調査・研究に参加する「プロジェクト学習」、プロフェッショナルに学ぶ「インターンシップ」など、実践を重視した学習プログラムが多くある。また1年から4年次まで通して配置した「軸としての各種デザインスタジオ」は、少人数教育の実現により、個性の発見、伸長が図られている。

都市環境デザイン工学科では、カリキュラムの作成にあたり、以下の目標を掲げている。なお、必修科目のほとんどをクラス分けによる少人数教育で実施する。

1. 入学から卒業までの全教育期間を、自然科学系基礎教育（工学基礎）、共通専門基礎教育（専門基礎）、専門応用教育の3段階に分け、それぞれを相互に連携・融合させている。
2. 工学基礎では、自然科学分野のうちの数学、物理学関連科目を専門教育に必要な基礎的素養を身につけるためのより実践的な教育を学科教員が実施する。
3. 専門基礎は、専門科目の枠組みを外し、科目相互で連携することにより、講義内容の過度な科目間重複を解消し、適切な講義計画を遂行する。また国際的なコミュニケーション能力に不可欠な工学英語を学科独自の教育プログラムとして配置する。
4. 専門応用は、都市プランニング系、環境システム系、施設デザイン系の専門科目群で編成する。これにより、さまざまな専門分野を有機的に活用できる系としての教育が実施可能となる。

システムデザイン学科では、人間中心の美的・機能的デザインを基本に、横断的な知識の融合と豊富な実習体験を通して、コンセプトデザインからプロダクションマネジメントまで、「ものづくり」を総合的に教育する。このため、本学科の専門講義科目は、「ものづくり」を「インダストリアルデザイン」・「エンジニアリングデザイン」・「マネジメントデザイン」の3つの視点から捉え、これらをバランスよく履修することで、「ものづくり」に必要な知識や技術、考え方を多角的に学ぶことを目指している。また、実習体験に基づいた創成型科目やプロジェクト型科目、デザインの現状、最新動向を知るためのフィールドワーク科目や事例研究科目などを設け、実社会との連携を取りながら、総合的デザインに対する動機付けや実践的な能力を養うことを目的としている。

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

A  B C

(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修への配慮が行われているか概要を記入。】

- 外国語、基盤科目（社会・人文、保健、工学系）、専門科目（学科基礎、学科独自、学部共通）、専門科目の順に、学年進捗とともに専門性が段階的に充実するカリキュラム体系をつくり、各年次の進級条件・卒業要件など履修のガイドラインを視覚的に表現している。
- オリエンテーションの一環である導入ゼミナールでは、各学科が提供する教育カリキュラムを体系的に解説すると同時に、少人数グループ指導により専門教育の導入を行う。
- 年次時系列で見た専門科目間のつながりを履修モデルとして提示し、学生自らによって適切な履修順序を見出しやすい教育体系としている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き

②幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。

A  B C

(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。

学部ミッション「総合デザイン」に基づき、以下のように教育課程を編成。

- 教養教育と専門教育に関する区分を改め、初年度から専門性を獲得し、最終年に至る過程で両分野を融合的に学習できるカリキュラム体系としている。
- 教養教育は文化歴史に対する包括的な理解を促すと共に、社会的責任を自覚した実践的な職業倫理を鍛えるものとして捉える。具体的には以下の施策として実現。
  - ・自然科学系教養科目：専門教員が担当し、専門科目との一貫性を確保。
  - ・外国語教育：英語教育はTOEFL-ITPを熟達度指標とした実践型とし、外部の専門教育組織に委託。中国語・イタリア語系は語学教育をベースに異文化理解を目指した教科として捉える。
  - ・導入科目：導入ゼミナール、入門的教科、リメディアル数学・物理、情報リテラシー、ロジカルライティング等の科目群を編成。
  - ・基盤科目：経営系、法律系、人文系、工学系の科目から、デザイン工学の実践的側面を補うものを取り揃え、学年を超え配当。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き

2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

A  B C

(～400字程度まで) ※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

【建築学科】

日本技術者教育認定機構により、学士課程と修士課程の2つの教育プログラムの同時認定を取得。これによりUIA（国際建築家連合）提唱の建築家教育基準の認定も兼ね、国際水準をみたす学士課程・修士課程の教育内容となっている。

【都市環境デザイン工学科】

9項目の学習・教育到達目標を設定し、授業に占める各目標項目の比率をシラバスに明示して学生が「修得できる能力」を定量的に把握できるようにしている。

学習達成度自己評価システムにより、学期末成績評価に基づいて学生が学習達成度を確認し、以降の履修計画に反映できるように、学習計画にPDCAサイクルを導入している。同システムは到達目標毎の達成度を確認できるとともに、GPA・進級・卒業・技術者資格取得に要する取得単位充足状況の点検が可能である。

当学科の教育プログラムはJABEEに認定されており、国際社会が求める技術者人材を輩出する教育内容であることが証明されている。

【システムデザイン学科】

1年次に工学やシステムデザインの基盤を、2年次にはシステムデザインの3系（クリエイション系、テクノロジー系、マネジメント系）の基礎理論と手法を主に学ぶ。3年次は系の選択による専門性の深化とともに、プロジェクト科目によって社会に適用可能な技術や手法を横断的かつ実践的に学ぶ。4年次は、卒業研究・卒業制作を通して高い専門性の高い知識や技術の習得を目指す。基礎から専門までを段階的に学習できる教育課程を編成。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き
- ・日本技術者教育認定機構（JABEE）認定書

②初年次教育、キャリア教育は適切に提供されていますか。

A  B C

(~400字程度まで) ※学生に提供されている初年次教育、キャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

【学部共通】

- 少人数制「導入ゼミナール」により、履修指導、技術基礎（情報リテラシー、ロジカルライティング）、学習の動機付け、キャリアパス紹介、実地見学等を実施。
- 3年次「インターンシップ」による実務体験。
- 実務で活躍する社会人による特別講演会の開催。

【建築学科】

「建築入門」（1年次）を通し専門分野を概観。演習科目「デザインスタジオ1~2」「造形スタジオ」（1年次）により建築デザインの基礎を習得。キャリア教育として大多数の専門科目を建築士資格指定科目と対応づけている。

【都市環境デザイン工学科】

導入ゼミナール（1年次）、ゼミナール（3年次）では多彩な技術者を招聘してグループディスカッションを交えたキャリア教育を実施。

【システムデザイン学科】

フィールドワーク方式を導入ゼミナールに採用。「システムデザイン入門」（1年次）の一環として、キャリアセンターの協力を得てキャリアデザインに関する講義を実施。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き
- ・初年次教育、キャリア教育に関する各種教材・講義資料

③学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。

A B C

(~400字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

【建築学科】

- 2年次、外国人教員担当「Design Basic in English」「特別講義」を設置。
- 3年次、「デザインスタジオ5、6」に外国人教員による英語での設計教育を導入。大学院の「海外交流プログラム」と連動した「国際ワークショップ」を開催。

【都市環境デザイン工学科】

- 基礎科目「開発と国際協力」では、海外勤務経験の豊富な技術者を兼任講師として、海外事業、技術の国際性、プレ

ゼンテーションの要点を教授。

- 2年次には工業英語、3年次には工業英語実習において実践的英語を教育（工業英語では試験科目として工業英検3級、4級を導入）。

【システムデザイン学科】

- グローバル人材育成事業の一環として全学的導入が検討されている英語強化プログラム（ERP: English Reinforcement Project）コースを設置。英語表現技術（学部科目）を主催。本年度より南フィリピン大学で、個人レッスン90時間、グループレッスン60時間におよぶ「海外英語研修」（C期、50日間）を実施するとともに、帰国後「プレゼンテーション技術」（D期）によりフォローアップ教育を実施する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"><li>■ 就業年限を延長せずに留学・長期インターシップなどを可能にするため、春学期開講の卒業論文・卒業設計の評価方法について検討され、実行に移された。</li><li>■ 国際性を高めるため「Design Basic in English」「海外英語研修」を新規に設置。</li></ul>	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

クォーター制とセメスター制とが混在している現状に対し、それぞれ一長一短があり、当面は現状のまま進めるのがよいとの結論を得ているが、クォーター制の利点・効果をさらに検討する必要がある。(例「海外英語研修」)

【この基準の大学評価】

デザイン工学部のカリキュラムについては、外国語、基盤科目、専門科目の順に、学年進行とともに専門性が充実する科目が提供されており、履修ガイドラインなどで履修モデルと共に学生に提示されている。

さらに、学部のミッション「総合デザイン」のもと、教養教育と専門教育を融合的に学習できるカリキュラムが編成されている。特に自然科学系教養科目は専門科目との一貫性が考慮されるとともに、外国語教育でも独自の取り組みが行われており、評価できる。

また、建築学科および都市環境デザイン工学科の教育プログラムはJABEEの認定を受け、システムデザイン学科についても、学年進行により基礎から専門を段階的に学習できるよう配慮されており、学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されている。

初年次教育については、少人数の導入ゼミナールや入門科目等により適切に行われている。キャリア教育については、インターンシップ、社会人による特別講演などが年次進行で行われている。

学生の国際性涵養については、各学科で外国人教員や海外勤務経験の豊富な技術者による授業の実施や英語教育の充実が図られている。南フィリピン大学など海外の大学との提携、システムデザイン学科では新たに「海外英語研修」を実施するなど活発な取り組みが行われており評価できる。また、クォーター制の導入は学生が海外の大学との交流を進めるうえで、効果的な制度改革として十分評価できる。

3 教育方法

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

A  B  C

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- 入学・進学時のガイダンス、導入ゼミナールにおける履修指導。
- 履修の手引きを活用した履修指導。
- 学習達成度自己評価システムを学生に提供している。学生自らが年間履修単位数を点検し、進級卒業要件、資格要件

に必要な単位修得状況、GPA などを確認し、達成度の状況に応じて担任教員が学生との面談に応ずる。

- システムデザイン学科の SSI コースの学生については、一般の学生とカリキュラムが異なるため、履修登録時に別途時間割を確認しながら指導。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

<学部>

- ・デザイン工学部履修の手引き
- ・ガイダンス日程表

<建築>

- ・IAE サーバー「CARESS」(履修支援システム)の利用案内

<都市>

- ・「学習達成度自己評価システム」の URL (「授業支援システム、エチュード」内)

<SD>

- ・「履修計画立案・達成度評価システム」の URL
- ・2015 年度 SSI 履修要項・講義概要

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

A  B C

(~400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

- シラバスに必要事項を明記。
- 1 年次「導入ゼミナール」において学部課程における学習方法を指導。
- 入学・進学時のガイダンスにおいて、当該学年に特徴的な授業や履修上の注意点等を説明。
- 全教員がオフィスアワーを設定し学生の個別相談に対応。
- エチュードを活用した指導。
- 各演習科目に配置した TA による学習支援。
- 都市環境デザイン工学科では担任制により学習指導を実施。
- システムデザイン学科では学年毎に学年担当の教員を配置。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き
- ・Web シラバスの URL

③学生の学習時間(予習・復習)を確保するための方策を行なっていますか。

A  B C

(~400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

【学部共通】

年間履修制限 49 単位を設け、学習時間を確保しやすい仕組みとしている。授業時間外に教室を開放して学習場所を確保するよう努めている。

【建築学科】

学科内の IAE (Integrated Archive Environment) サーバーにより授業成果物を記録し、予習・復習素材として公開。同サーバーの RFC (Request For Comments) 機能により、双方向性の自習が可能。

【都市環境デザイン工学科】

シラバスや授業計画を参考にし、事前に学習すべき内容を学生へ周知。講義では適宜、宿題を課して復習・自習の動機を与えている。実験・実習・演習ではレポート作成によって復習を徹底する授業運営としている。4 年生には卒業研究実施記録の作成を指導し、研究内容を日常的に記録・報告させて学生の自己管理を基本とする教育指導体制としている。

【システムデザイン学科】

予習・復習のため、授業支援システムを活用した資料提供や学習指示を行っている。特に演習・実習系の授業では、授業時間外での作品制作やグループワークが行われるため、スタジオルームを授業時間外に開放、または研究室を利用できるようにするなどの配慮を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

<学部>

- ・Web シラバスの URL

<建築>

- ・IAE サーバー「RFC」(Request for Comments)の利用案内

<都市>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業研究実施記録</li> <li>・各授業の講義記録</li> </ul>	
④教育上の目的を達成するため、新たな授業形態の導入に取り組んでいますか。	A B C
<p><b>【具体的な科目名および授業形態・内容等】</b> ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <p><b>【建築学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「デザインスタジオ 5～6」 少人数制設計教育（Hosei Active Learning－HAL スタジオを活用したアクティブラーニング）</li> <li>・「フィールドワーク」 グループワークにより街区や建物の調査を行い、図面・模型製作（PBL 型フィールドワーク）</li> </ul> <p><b>【都市環境デザイン工学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「導入ゼミナール」 技術者レクチャーに基づく学業行動計画策定のためのグループワーク（アクティブラーニング）</li> <li>・「デザインスタジオ 1」 紙の小片を組み合わせた架構の構想と制作（アクティブラーニング）</li> <li>・「橋のデザイン」 橋梁の計画と模型製作（アクティブラーニング）</li> <li>・「鋼構造デザイン実習」 鋼構造の計画と模型製作（アクティブラーニング）</li> <li>・「RC 構造デザイン実習」 橋梁の現場見学と配筋模型の製作（グループワークによるアクティブラーニング）</li> <li>・「ゼミナール」 卒業研究の疑似体験、技術課題をテーマとするグループ単位のディベート（グループワークによるアクティブラーニング）</li> <li>・「デザインスタジオ 2」 対象地区に対する現地調査・課題抽出に基づく改善策の図面化と模型製作（PBL 型フィールドワーク）</li> </ul> <p><b>【システムデザイン学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ゼミナール 1」 全学生による複数のプレゼミの受講（多分野融合研究の基礎構築）</li> <li>・「プロジェクト実習・制作 2」 製品企画、設計、製造、流通に至る「ものづくり」の過程を総合的・横断的に実習（多分野融合研究の基礎構築）</li> <li>・「フィールドワーク」 本格的な製品企画（PBL 型フィールドワーク）</li> <li>・「応用プロジェクト研究」 製品企画を具現化（PBL 型フィールドワーク）</li> <li>・「海外英語研修」（国際性を涵養するための英語によるコミュニケーション能力向上：個人授業を含む）</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Web シラバスの URL</li> </ul>	
3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	はい いいえ
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全教員・学生による Web で公開シラバスの閲覧。</li> <li>■ 学科内の日本技術者教育認定機構プログラム責任者を中心とした検証。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Web シラバス URL</li> </ul>	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい いいえ
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 授業実施の証拠資料（配布資料、講義記録、学生提出物、補講資料）を JABEE 室において保管し、プログラム責任者を中心に検証（建築学科、都市環境デザイン工学科）。</li> <li>■ 教室会議、拡大教室会議による授業エビデンス提出状況の確認。</li> <li>■ 「デザインスタジオ」「フィールドワーク」等の実習授業では、成果発表・展示を通して検証。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IAE サーバー「CARESS」（履修支援システム）の利用案内</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義記録の作成と授業実績の確認</li> <li>・次期授業改善計画を作成し、授業内容・シラバスを継続的に再点検・見直す。</li> <li>・複数教員科目に関しては、授業終了時・開始時における打合せにより授業内容・シラバスの再点検・見直しを施す。</li> </ul>	
3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A B C

<p><b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 成績評価に対する疑義については、成績調査により対応。</li> <li>■ 必要に応じて解答用紙を開示し、採点理由を説明。</li> <li>■ ガイダンス時および、履修の手引きやシラバス上で成績評価方法と基準を学生へ明示し、JABEE プログラム責任者（建築、都市）を中心に成績評価・単位認定の妥当性を検証。</li> <li>■ 採点結果報告書（成績原簿）を作成・保管し、必要に応じて成績分布を確認するシステムを採用。</li> <li>■ グループワーク等、各人のグループ成果への貢献度の定量評価が難しい科目では、役割分担を明らかにするなどの対策を講じている。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン工学部生のための履修の手引き</li> <li>・Web シラバス URL</li> <li>・成績評価の調査について（掲示）</li> <li>・成績調査願</li> </ul>	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>（～400 字程度まで） ※取り組み概要を記入。</p> <p>該当学生による他大学での単位認定申請に基づいて単位互換性を各学科で検討し、運営委員会および教授会で審議して単位を認定する。各学科では、既修得単位と当学部の科目との互換性を様々な客観的情報に基づいて点検し、他学で修得した単位を本学での単位として認定している。一部の学科においては内規を設けているものの、学部としての規定は設けていない。</p> <p>ただし、学部としてのカリキュラムの一貫性保持の理由から転編入制度は設けていない。また、他大学との単位互換に関する協定も設けていない。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前既修得単位の認定について（教授会資料）</li> </ul>	
③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
<p>（～400 字程度まで） ※取り組み概要を記入。</p> <p>日本技術者教育認定基準に従って、シラバスに明記された方法に整合する成績評価を行っている。</p> <p>出席管理システムに学科で統一した遅刻時間、欠席とする時間設定を設け、欠席回数も統一したルールで評価。成績評価項目（レポート、中間、期末試験など）での評価比率をシラバスに掲載し、成績を適正に評価している。単位認定が厳格であることは言うまでもないが、必修科目では追試（合格基準は 100 点満点で 50 点～59 点とする）を実施するなど、履修学生へ複数の履修機会を提供している。</p> <p>年度末等に開催される講師懇談会においては、成績の厳正評価を全教員で共通認識とすることを徹底している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本技術者教育認定基準（2012 年度～）、日本技術者教育認定基準共通基準（2012 年度～）</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本技術者教育認定基準（2012 年度～）、日本技術者教育認定基準共通基準（2012 年度～）</li> </ul> <p>&lt;SD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Web シラバス URL</li> </ul>	
3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
①教育成果の検証を学部（学科）ごとに定期的に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p><b>【建築学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本技術者教育認定機構のプログラム認定審査年度に、成果の公開展示を兼ねた教育内容の振り返りを行っている。</li> <li>■ カリキュラムの見直し期には、学科内委員会を発足させてこれにあたっている。</li> </ul> <p><b>【都市環境デザイン工学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 毎学期あるいは毎年実施される授業改善アンケートや卒業生対象のアンケート調査を実施してその結果を分析し、学生・卒業生の意見に基づく教育効果を多角的に計測して教育改善を図っている。</li> <li>■ 同窓会と合同でセミナーや懇談会を実施することにより、自立力ある技術者人材を輩出するための教育・研究のあり方を議論している。</li> </ul>	

【システムデザイン学科】

- 教室会議や年度末の講師懇談会にて学生の履修情報を教員間で交換し、授業内容・方法の見直しの機会としている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

<学部>

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き
- ・学則変更新旧対照表

<都市>

- ・教室会議・拡大教室会議の議事録
- ・JABEE 技術者教育プログラム認定審査に際しての自己点検書とその根拠資料（2015年）
- ・法土会会報

<SD>

- ・教室会議議事録

②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C
---------------------------------	---	---------------------------------------	---

【利用方法】 ※箇条書きで記入。

【建築学科】

- 授業改善アンケートからの「気づき」をシラバスに明記し学科内で共有。

【都市環境デザイン工学科】

- 授業改善アンケート結果に基づき各科目担当教員が次期授業改善計画書を作成し、次期の授業の改善にしている。
- 学科独自の授業改善アンケート結果に基づいて教員に優秀授業賞を授与し、教育業務へのインセンティブを与えて教育を継続的に改善する仕組みとしている。
- 授業評価の高い科目と担当教員名を学内掲示板と授業支援システムに開示して、全教職員および学生に周知し継続的な授業改善の仕組みを作っている。

【システムデザイン学科】

- 各教員に送付される授業改善アンケート結果の内容をそれぞれが照査し、特徴的事象については、教室会議や毎年度末に実施している講師懇談会において情報交換を行い、授業内容の見直しに活用。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

<建築>

- ・Web シラバス URL

<都市>

- ・教室会議・拡大教室会議議事録
- ・エチュード「お知らせ」

<SD>

- ・講師懇談会案内

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・狭隘な施設での学習環境を改善するため、空き教室の掲示を行うようにし、学生の自習に供することとした。	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- 従来型の講義を念頭に装備された教室が多く、デザイン工学部特有の演習科目など新しい形態の授業に対応しきれないなど施設上の課題があり、早急に施設利用状況を把握する必要がある。
- 空き教室の有効活用の際し、掲示がさらにわかりやすくなるようにその方法を工夫するとともに、空き教室の利用ルールを定める必要がある。

【この基準の大学評価】

デザイン工学部の履修指導および学習指導は、ガイダンスや導入ゼミナールなどにより適切に行われている。特に履修指導における学習達成度自己評価システムの活用や SSI の学生への対応など、個々の学生の特性に配慮された対応がなされており評価できる。

学生の学習時間を確保する方策としては、履修単位の上限設定のほか、学科ごとにシステムを活用した学習環境の提供やレポート作成による復習の徹底などにより、適切に実行されている。

新たな授業形態の取り組みとしては、ひとコマの授業を連続授業としたり、各学科それぞれにおいてアクティブラーニングや PBL を取り入れた実習やゼミナールなどが積極的に展開されており、評価できる。また、提携先の南フィリピン大学への留学に対応するために、英語による授業の新設も国際化を推進するための新たな試みとして評価できる。

シラバスの適切性については、全教員・学生による Web シラバスの閲覧、建築学科および都市環境デザイン工学科では JABEE の責任者を中心とした検証が行われている。また、授業がシラバスに沿って行われているかについては、講義や実習のエビデンスをもとに教室会議等で検証が行われている。

成績評価と単位認定に関しては、ガイダンス時に評価基準等を明示するとともに、学生から成績評価に対する疑義があった場合には適切に対応がなされている。また、成績分布の検証や JABEE に基いた検証なども行われており適切である。他大学等における既修得単位の認定については、運営委員会と教授会での審議のうえ単位を認定する仕組みが整備されており適切である。厳格な成績評価を行うための方策としては、シラバスでの成績評価方法の明示、出席状況や追試の評価ルールの整備が行われ、適切に運用されている。

教育成果の検証については、JABEE 認定審査時の自己点検、各種アンケートの実施・分析、教室会議や懇談会等により行われている。

学生による授業改善アンケートの結果については、各学科それぞれにおいて情報が共有され、組織的な活用が行われている。特に、都市環境デザイン工学科では、アンケート結果に基づき教員を表彰し、教育業務に対するインセンティブを与える仕組みを設けていることは、教員のモチベーションの向上、授業改善への取り組みとして高く評価できる。

## 4 成果

### 【2016年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

##### 【学位授与方針】

デザイン工学部では、学士（工学）の学位授与にあたり、以下の能力を有していることを重視する。

1. 国際的な視野に立ち、自然と環境を基盤に、歴史と文化の遺産を基礎に置いて、美学と工学・技術の幅広い融合から生まれる、新しい「ものづくり」・「空間づくり」・「都市づくり」に関する基本的な知識や考え方を体系的に理解できること。
2. 工学をベースにしなが、他の学問分野との知識の融合による正しい価値を創造しデザインする工学としての総合的デザイン能力と技能を身につけていること。
3. 社会の一員として、倫理観を持って自らを律し、他者と協調・協働して行動できること。
4. 獲得した知識や技能、態度等を総合的に活用し、新たな課題にそれらを適用し、自らその課題を解決したり、その成果により人に感動を与えたりできること。

こうした学部のディプロマポリシーを踏まえたうえで、各学科ではそれぞれ、以下のような学位授与の方針を掲げている。

建築学科では、学士（工学）の学位授与にあたり、グローバルに持続可能な環境を見すえた倫理観をもち、技術や実用性に加え広義の美しいデザインを成し、人に感動を与えるものをめざす。そのためには、表現能力、コミュニケーション能力を獲得していなければならない。人間の安心、安全、快適を保障する最低限の基盤となる建築知識、技術は、建築分野に課せられた建築素養（資格要項を含む）のためには不可欠である。卒業研究・卒業設計は、4年間の集大成としてゼミナールに所属し、より深い専門性を持ち広い視野から問題設定と論究を成し発表、提言を行う。そして総合的（ホーリスティック）な判断のできる学生として建築デザインを纏める。さらに建築を学ぶものとして社会的倫理観を持ち、バランス感覚のとれた、真に「アーキテクト・マインド」の獲得を重視している。

都市環境デザイン工学科では、学士（工学）の学位授与にあたり、グローバルな視点に立った工学的教育を行うことにより、専門技術を活かし問題を解決する能力を身につけ、社会との対話と説明責任の遂行が可能な人材の育成を目的とし、以下のような能力を重視する。

1. 地域の歴史・文化を尊重し、自然環境と共生する社会基盤の整備に貢献できる能力および技術者倫理を備えた技術者。
2. 自然・人文社会・情報科学等の基礎学力・都市・地域システムを計画・設計・施工・維持管理・評価する上で必要な

専門基礎学力および実際問題に活用できる能力およびコミュニケーション能力。

3. 自然環境と人工環境の融和を目指した持続可能な地域社会の形成に必要な社会基盤施設を計画すると共に個々の施設をデザインする創造的な能力。
4. 目的意識を持って自己スキルアップを継続的・積極的に進める意欲とさまざまな制約条件を正確に分析・理解した上で、計画的に業務を遂行する能力。

システムデザイン学科では、学士（工学）の学位授与にあたり、従来の工学基礎の教育に軸足を置きながら、それらを基盤として他の分野との知識の融合による「新しい価値ともの・システムを創造しデザインする工学」として、様々な技術分野を統合した新たな学問体系の修得を重視する。これは、従来のアナリス主体の細分化、専門化した大学専門教育とは大きく異なり、個別技術や幅広い知識を組み合わせながら、人間中心にシステムをデザインする、いわゆるシンセシス能力を身に付けた人材の育成を目指すものである。本学科では、環境・健康・福祉・公共の安全を理解し、国際的な視野に立って判断のできる総合システムデザイン能力の素養を十分身に付けた学生に学位を授与し、社会へ送り出すことを目的としている。

#### 4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

①学生の学習成果を測定していますか。

A  B  C

(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入(習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等)。

##### 【建築学科】

学習・教育目標の達成度を評価する学習達成度自己評価システムを構築・提供し、学生自身が学期ごとに達成度を自己確認できるようにしている。「デザインスタジオ」などの演習科目においては最終講評会を開催し、教員が横断的に学習成果の達成度を確認している。

##### 【都市環境デザイン工学科】

学習達成度自己評価システムを利用した学習達成度の確認作業によって学生自らが学修実績を振り返り、今後の履修に対する心構えを教員に報告する。各学生の担任教員は、その報告に基づいて学習・教育到達目標毎の達成度、GPA、進級・卒業・技術者資格取得に要する取得単位充足状況などの学習効果を定量的に把握・管理する。達成状況を鑑み、必要に応じて該当学生に履修指導を施す。

##### 【システムデザイン学科】

就職状況や学内外の各種デザインコンペティションの受賞状況から判断している。2013年4月に学習達成度自己評価システムを導入しており、学生の志望や志向、履修状況の履歴等を確認できるようになっている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

##### <建築>

- ・IAEサーバー「CARESS」(履修支援システム)の利用案内

##### <都市>

- ・「学習達成度自己評価システム」のURL(「授業支援システム、エチュード」内)

##### <SD>

- ・「履修計画立案・達成度評価システム」のURL

②成績分布、進級などの状況を学部(学科)単位で把握していますか。

はい  いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。

##### 【建築学科】

- 出席管理システムにより出席状況の把握。
  - 成績原簿を作成・保管しており、教員ごと必要に応じて成績分布の検証に供する。
- 4年次への進級にあたり進級要件を設けており、留級や要注意学生などの状況は教室会議で確認。

##### 【都市環境デザイン工学科】

- 出席管理システムによる出席状況の把握。
- 夏・冬学期終了時に履修状況を教室会議で確認し、成績原簿に基づいて成績不振学生を担任教員が個別面談により指導。

##### 【システムデザイン学科】

- 出席管理システムにより出席状況の把握。
- 留級や要注意学生などの状況は教室会議で確認。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

##### <建築>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;SD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室会議議事録</li> </ul>	
③学習成果を可視化していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p><b>【学習成果可視化の取り組み】</b> ※取り組みを箇条書きで記入（取組例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等）。</p> <p><b>【建築学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 設計作品、卒業論文、卒業設計については、作品集、論文集を刊行</li> <li>■ 3.1③で述べた IAE サーバーの RFC 機能により、学生による研究成果や作品の発信を図っている。</li> <li>■ IAE サーバーを利用して学生がポートフォリオ（e-Portfolio）を作成可能</li> <li>■ 演習系の科目では、学期ごとに優秀作品を学内に展示。</li> </ul> <p><b>【都市環境デザイン工学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ デザインスタジオや景観デザインに関する学生コンペでの優秀作品を展示するとともに、業績をパンフレット・教室ホームページ・教室棟回廊に公開している。</li> <li>■ 卒業論文概要を学内に開示している。</li> <li>■ 学会などにおける学生の実績をホームページに報告している。</li> <li>■ 学習達成度自己評価システムによって学習・教育到達目標毎の達成度、GPA、進級・卒業・技術者資格取得に要する取得単位充足状況を定量的に評価している。</li> </ul> <p><b>【システムデザイン学科】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2013年に導入した学習達成度自己評価システムを活用することにより、学習成果を可視化している。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ IAE サーバー「RFC」（Request for Comments）の利用案内</li> <li>・ 『HOSEI SUTDIOWORKS』（作品集）</li> <li>・ 『建築研究』（論文集）</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田町校舎内の展示回廊</li> <li>・ 法政大学ホームページ：都市環境デザイン工学科のオリジナルサイト</li> <li>・ 「学習達成度自己評価システム」の URL（「授業支援システム、エチュード」内）</li> </ul> <p>&lt;SD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「履修計画立案・達成度評価システム」の URL</li> </ul>	
4.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。	
①学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就職担当教員を中心に求人や内定状況に関する就職活動情報を収集・管理し教室会議で報告</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>&lt;学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャリアセンター進路先データ</li> </ul> <p>&lt;建築&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;都市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室会議議事録</li> </ul> <p>&lt;SD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室会議議事録</li> </ul>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書き

でそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・各学科がそれぞれ独自で開発運用してきた学習達成度自己評価システムを3学科で整合のとれたものとするための見直しを開始した。	

### (3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・学習達成度自己評価システムの学科間での整合を図るにあたって、学生に対して同システムを利用することによるメリットを明確に示し、利用率の向上を図りたい。
---

### 【この基準の大学評価】

デザイン工学部では学生に学習達成度自己評価システムが提供されており、学生自身による学習成果の達成度の確認や学修実績の反省が行われている。なかでも学会、コンペでの発表に積極的に参加する学生もおり、そのなかには受賞に至るケースもみられることは特記すべき成果である。教員は学習達成度自己評価システムの情報や就職状況、デザインコンペ等の受賞状況により学習成果を測定するなどの取り組みは高く評価できる。

学生の成績分布や進級などの状況については、教室会議等で確認が行われ、適切に対応されている。

学習成果の可視化については、ホームページへの業績掲示や学習達成度自己評価システムの活用、優秀作品の展示などを通して行われており、評価に値する。

学生の就職・進学状況については、就職担当教員を中心に適切に把握されている。

## 5 学生の受け入れ

### 【2016年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

#### 【学生の受け入れ方針】

デザイン工学部では、横断的な知識の融合により、多面的な観点から物事を検討し、公正な価値観を持った、創造性豊かな人材の育成を目的としている。このため、工学的な基礎学力に加えて、自然や環境、歴史や文化とのかかわり合いを大切に考え、豊かな感性を備えた、倫理観、積極性のある学生の受け入れを目指している。

そのため、一般入試やセンター試験利用入試、統一日程入試という学力による入学試験の他に、指定校推薦入試、付属校推薦入試、外国人留学生入試、帰国生入試、スポーツ推薦入試など様々な入学経路を設けることにより、多様な学生を受け入れている。

それぞれの学科において、修得しておくべき知識等の内容は以下のとおりである。

建築学科が目指す「アーキテクト・マインド」は専門の幅が広いいため、大学以前に広く教科を修めておかなければならない。理数系、国語、英語、歴史、芸術、コミュニケーション力など基礎力をもった人を受け入れる。そして建築家、技術者、さまざまなプロジェクトのプロデューサーなどとして、第一線で活躍したい若人を求めている。専任教授陣および兼任講師の多くが専門分野の第一線で活躍しており、インターンシップなどでは、実務の現場を早めに体験でき自らの将来像を描くことができる。そして最小限の基盤的な必修を除いて、他学部共通科目を含む幅広い学問を選択でき、自由に求める自己実現に近づくことができるので、スキルを磨きたいという学生の挑戦を希望する。また海外に関わり活躍中の講師を招聘し、最新の各種デザインやコンピュータ、造形のデザイン指導を行っている。したがって海外のリアルな情報にふれることができ、海外留学の足掛かりとなるので、世界にむけて飛躍したいと考えている人も受け入れている。

都市環境デザイン工学科では、組織依存型ではなく、自己に対する責任感の強い人材、すなわち自分で考え、判断し、主体的に自分の運命を切り拓いていく人材、積極的に社会の進歩に寄与する自立型人材を社会に送り出すことを重視し、グローバル化、国際化に対応できる幅広い視野と独創性、ならびに問題解決能力を持つ確かな技術者を育成することを目指し、高度な専門性と広い教養という両面を重視しながら実学の伝統を堅持する人材の育成に努めている。さらには、環境問題や大きく変貌しつつある社会情勢も考慮に入れた次世代の社会基盤のあり方などについて、的確な判断力、洞察力、問題解決能力を有する人材の育成を目標としている。このような観点から、工学的な基礎学力に加えて、自然とのかかわり合いを大切に、生活しやすい安全で安心な都市空間を築き、われわれの共通の財産として維持・管理することに深い興味を有する個性ある積極的な学生を求めている。

システムデザイン学科では、電気工学や機械工学などといった従来からの縦割りの専門に特化せず、横断的な知識の融

合により、多面的な観点から物事を検討することができ、公正な価値観をもった、創造性豊かな人材を育成することを目的としている。このために、一般入試による学力試験では、「英語」「数学」「理科（物理・化学）」の3教科を受験し、得点の高い2教科を用いて合否判定を行っている。また、センター入試では、「国語」「数学」「理科（物理、化学、生物、地学）」「外国語」から上位3科目の得点で合否判定を行い、文系の素養をもつ学生も受け入れている。その他、指定校推薦入試、付属校推薦入試、統一入試、留学生入試、帰国生入試、スポーツ推薦入試など様々な入学経路を設け、多様な学生を集めている。これらの試験を通して、本学科では、以下のような素養を身に付けた学生が入学することを期待する。

- ・基本的な学力を持っており、勉学の習慣を身に付けている者
- ・文系の素養も持ち、豊かな感性をそなえている者
- ・デザインだけでなく、工学的視点から客観的に物事を判断・評価することに興味のある者

5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

入学者数の算定に経験豊富な入学センターのアドバイスに基づいて一般入試の合格者のボーダーラインを定めている。ここ数年間は適正な超過率となっていたが、本年度は建築学科で入学者が超過。今後も、入学センターと協力して、適正な入学者数となるように努める。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・第1回学部長会議資料（定員充足率）

定員充足率（2011～2015年度）

（各年度5月1日現在）

種別\年度	2011	2012	2013	2014	2015	5年平均
入学定員	280名	280名	292名	292名	292名	
入学者数	329名	304名	300名	320名	283名	
入学定員充足率	1.18	1.09	1.03	1.10	0.97	1.07
収容定員	1,120名	1,120名	1,132名	1,144名	1,156名	
在籍学生数	1,292名	1,324名	1,279名	1,267名	1,252名	
収容定員充足率	1.15	1.18	1.13	1.11	1.08	1.13

5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。

A  B C

【検証体制および検証方法】※箇条書きで記入。

- 全学方針に基づき、様々な方式による入学試験を実施し、多種多様な学生の確保に努力している。
- 比較的入学定員の多い指定校推薦入試に関しては、過去の入学実績と学生就学状況の追跡調査に基づいて毎年指定校の入学推薦基準を見直し、入試方策の適正化を継続的に図っている。
- 新入生対象のプレースメントテストと TOEFL-ITP レベル2により入試方式と入学時学力との相関性を調査・分析し、入試システムの改善・向上を図っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・プレースメントテスト成績結果
- ・TOEFL-ITP レベル2の成績結果

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・建築学科において、2017年度入試以降のセンターB方式の科目配点を変更し、センターC方式の導入を決めるなど、入学経路の多様化に取り組んだ。	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・建築学科 2016 年度入学者数が大幅に超過したため、次年度以降の適正化が課題とされる。

**【この基準の大学評価】**

デザイン工学部の入学定員については、入学センターと連携し適正な入学者数の確保に努めている。入学後の学生の成績状況に関しては、プレイスメントテストや TOEFL-ITP の結果と入学時学力との相関を分析することにより、入試方式別に修学状況や入学者の学力等の調査・分析を行なっている。その結果を学生募集および入学者選抜の改善に適切に反映させている。

**6 学生支援**

**【2016 年 5 月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。 はい  いいえ

**【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】** ※箇条書きで記入。  
 ■ 運営委員会、教授会、各学科教室会議において、卒業、卒業保留、退学状況の報告を行い、休学者や退学者については、その理由や状況について情報を共有している。  
 ■ 各学科教室会議において、年度末には全ての履修状況データを把握し情報共有を図っている。  
 ■ 退学希望者には学科主任または指導教員が面談を行い退学理由の把握を行うとともに大学への要望等の把握を行っている。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。  
 <建築>  
 ・教室会議議事録  
 <都市>  
 ・教室会議議事録  
 <SD>  
 ・教室会議議事録

②成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。 A  B C

**【成績不振学生への対応体制および対応内容】** ※箇条書きで記入。  
 ■ 取得単位数や GPA の値がある一定水準以下の学生、ならびに学期末に留級した学生に対して、教室会議で対応を協議し、進級・卒業に支障が生じることがないように、学科主任あるいは担当指導教員が適宜面談指導を実施している。  
 ■ 必要に応じて保護者に注意を促す書面を送付。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。  
 <建築>  
 ・教室会議議事録  
 <都市>  
 ・教室会議議事録  
 <SD>  
 ・教室会議議事録

③学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。 A  B C

(～400 字程度まで) ※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。  
 ■ 初年度の導入ゼミナールを通した導入教育。  
 ■ 学内チューター制度の活用による修学支援の他、TA（特に外国人留学生）による相談体制の整備。  
 ■ 全教員がオフィスアワーを設定し外国人留学生の個別相談に対応。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。  
 <建築>  
 ・教室会議議事録

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし
-------

【この基準の大学評価】

<p>デザイン工学部では卒業・卒業保留・留年者等のデータは適切に把握されている。</p> <p>また、成績不振学生に対して、面談指導や保護者との連携を図るなど適切に対応されている。</p> <p>外国人留学生への修学支援については、チューター制度の活用のほか、オフィスアワーによる個別相談などにより適切に対応されている。</p>
--

7 内部質保証

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム(質保証委員会)を適切に機能させているか。	
①質保証委員会は適切に活動していますか。	はい いいえ
<p>【2015年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。&lt;デザイン工学部&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 質保証委員会は各学科の専任教員から1名(計3名)と各大学院専攻主任3名の計6名で構成。学科選出委員は学科の意見取りまとめ、学科状況の把握に努め、その他の委員は学部全般に関する視点を持って委員会の作業全般に参加</li> <li>■ 年4回開催(5月1日、9月25日、12月4日、2月19日)</li> <li>■ 主要議題 <ul style="list-style-type: none"> <li>努力課題に対する改善計画</li> <li>現状分析シートの点検・評価</li> <li>中期・年度目標</li> <li>デザイン工学部質保証委員会規約の一部改正</li> <li>学部の3つのポリシーの整合性や一体的な関連性についての議論</li> <li>学習・教育・研究のためのスペース拡充と施設分散の解消を目標とした施設利用状態の調査</li> <li>3学科で整合のとれた学習達成度自己評価システムの構築</li> </ul> </li> </ul>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 質保証委員会規約の一部改正による「果たすべき基本的な役割」の明確化</li> <li>■ 3つのポリシーについて学科間での整合性や一体性を図るための方針の提示</li> <li>■ 学習達成度自己評価システム検討委員会の設立</li> </ul>	

【この基準の大学評価】

<p>デザイン工学部では6名で構成される質保証委員会を定期的に開催し、教育の質保証に向けた幅広い議論が行われている。</p>
--

【大学評価総評】

<p>デザイン工学部の設置からほぼ10年が経過したが、この間、学部の特徴を出しつつ、堅実な学部運営を行ってきたこ</p>
--

とは高く評価できる。

2015年度大学評価委員会の評価結果への対応に関しては、特に学習達成度自己評価システムによるきめ細かな履修支援は興味深い。

全体としては、教育内容は多様性に富み、文理融合の教養教育の充実、体系だった基礎科目と専門教育との連携、実務に直結する演習・実習教育といった教育課程の方針を実現するために、独自の工夫をこらした取り組みを継続的に行っており、これは十分に評価することができる。学生の国際性を涵養するための取り組みも、新たに「海外英語研修」を開始するなどの活発な活動が行われている。今後は、文理融合の教養教育の充実を目指す学部として、他の理系学部にはみられない、より一層の独自性を発揮する取り組みを期待したい。